


実施学年	6年	実施教科 (科目)	社会科	実施日	H24.9.20
単元名	江戸の文化と新しい学問				
本時の内容 (項目)	江戸時代の文化や学問に関わって登場する近松門左衛門、歌川広重、伊能忠敬、前野良沢・杉田玄白、本居宣長について、グループごとに発表したい人物を選び、調べ学習をする。本時は調べてきた人物について学級で発表会をする。				
本時の目標	江戸時代の学問や文化の発展に貢献した人物について調べたことを、電子黒板や実物投影機などのICTの機器を使用することを通して、聞き手にわかりやすく発表することができる。				
授業場所	6年2組教室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ・他( )		ICTの主な 活用者	教師・生徒	
活用するICT 機器	電子黒板(小学校社会科デジタル教科書)、実物投影機、大型モニター				
ICTを活用する 目的・ねらい・予 想される効果	<p>日ごろの社会科の学習では基本的に教師が電子黒板を操作し、児童は操作する様子をよく見ている。そのような電子黒板を今回は児童自身が操作しながらプレゼンテーションをすることになるので、意欲的にICTの活用方法について考え使用していく姿が予想される</p> <p>教科書の資料を電子黒板で、その他の資料は実物投影機を使用して発表することを通して、児童自身にICT機器を使用する力を身につけさせることや、それを使用することで聞き手に伝えたい事柄をわかりやすく伝えることができるという良さがあることを理解させることを目的に活用した。</p>				
児童生徒の情報 活用能力を育 てる指導場 面・指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表の事前にはリハーサルを行い、どのように電子機器を使用すると聞き手に伝わりやすくなるかを指導する。</li> <li>発表後に、プレゼンテーションしたグループの良さを見つけをすることで、どのようなICT機器の使用 방법이効果的なのかを考えさせる。</li> </ul>				
利用するコン テンツ名・サ イト等	デジタル教科書「新しい社会6年」東京書籍				
参考にしたサ イト・文献 等	なし				

<p>事前の準備</p>	<p>①社会科の学習をデジタル教科書を使用して授業を進め、教師が操作する様子から、タッチパネルの使い方や、写真などの大きく見せたい資料を拡大して見せられることを理解させる。</p> <p>②児童が発言する内容によっては、電子黒板を操作させ、電子黒板に慣れさせる。</p> <p>③プレゼンテーションをする「江戸の文化と新しい学問」の単元に入ったら、グループごとに調べたい人物を選び、グループで調べ学習（教科書・資料集を中心に調べる）をする。</p> <p>④調べた内容から発表する内容を選び、どのようにプレゼンテーションをするのか計画を立てる。</p> <p>⑤発表のリハーサルを行い、電子機器の操作方法を確認し、どのように使用していくとより効果的に伝わるか考え、発表会に備える。</p>
<p>指導計画（授業の展開）</p>	<p>1. 発表するグループは、「相手にわかりやすく発表すること」を視点に、聞き手は「どのように電子機器を使って発表しているか・工夫は見られるか」「わかりやすく発表されていたか」の2つを視点にプレゼンテーションをしていくことを確認する。</p> <p>2. グループごとに調べてきた人物について、電子機器を使用しながら発表する。</p> <p>3. 発表を聞いた人は、聞いてわかったことと、発表の仕方についての感想をノートにまとめ、交流する。</p> <p>4. 全グループの発表後に、それぞれの人物についてのまとめと、ICTを使用すると見せたいものを簡単に大きく写して見せることができわかりやすく相手に伝えることができることの確認をする。</p> <p><b>大型モニターに実物投影機の映像(資料集の写真など)を写す</b></p> <p><b>電子黒板でデジタル教科書を使う</b></p> 
<p>ICTを活用した授業時の教師側（指導上）の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板や実物投影機を児童がすぐに使える状態にしておく。</li> <li>・聞き手にうまく ICT 機器を活用して発表ができているかという視点を持たせる。</li> </ul>

ICT を活用した授業時の児童生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の中で ICT を活用させることで、意欲的に発表内容を考え取り組んでいた。</li> <li>・ ICT を利用することで、「うまく ICT を使いこなせた」という自己充実感を得ることができた。</li> <li>・実物投影機やデジタル教科書を使った説明を聞くことにより、小さな写真を拡大して見ることができたり、教科書中の文章でポイントとなるものが示されたりしたので、学習内容に対する理解が深まった。</li> </ul>
ICT を活用した授業後の評価（実践の手応え）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書は社会科の学習では毎回使っているが、電子黒板の使用方法や、使用することのよさに対する理解が深まり、授業で自分の考えについて話すときに、デジタル教科書を使って、聞き手に伝わりやすく話そうとする児童が増えた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にスムーズに ICT を使用して発表させるにはそれなりに練習が必要になる。継続的な利用によって慣れさせていく必要もある。</li> <li>・デジタル教科書を使用する場合は、教科書の必要な部分を拡大して提示したり、必要に応じて書き込むこともできるが、拡大した内容や書き込んだ部分が板書に記録して残していけない。デジタル教科書で表示するものと、黒板にきちんと位置づけるべきこととのバランスをとることが大切である。</li> </ul>